

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年10月 日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	31130
政策名(章)	第1章 立地特性を生かした産業の振興をめざします	評価担当部	経済部
基本施策名(節名)	第1節 活力ある産業の振興	評価担当課	産業振興課
施策名	産業支援基盤の整備	課長名	下山啓二

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

市の産業振興の拠点である市立産業会館の施設機能及び産業情報センター機能の充実を図ることで産業支援基盤の充実に努めた。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		144,115	相模原産業創造センター出資金 535,013千円、西橋本連絡所経費 4,064千円の減(いずれも事業の終了)、新たな事業(産業振興財団)の追加
人件費		1,530	
市民一人あたりの事業費	1,026	218	
合計	632,077	145,645	

*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

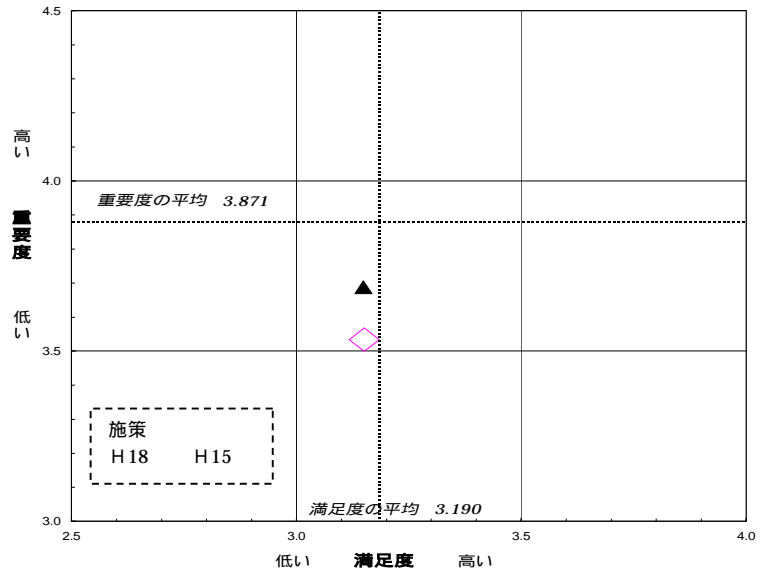
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	産業情報センターにおけるIT相談の指導件数	平成17年度指導件数71回/目標80回	71件 88.8%	H17
指標2	産業会館研修室、多目的ホール、国際商談室等の稼働率	稼働率 46.4% 利用可能回数 6,108件 利用件数 2,833件	2,833件 46.4%	H16
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	80 / 71	19	100回	21	100回	IT相談は週2回、1回2時間を予定しており、当面、年100回程度を目標とする。
達成率	88.8%					
指標2	50 / 47	19	稼働率55%	21	稼働率60%	現在、施設の稼働率が50%を若干下回っているため、最終年度には60%程度になるよう目標を設定。
達成率	94.6%					
指標3						
達成率	#DIV/0! %					
指標4						
達成率	#DIV/0! %					
指標5						
達成率	#DIV/0! %					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.151で51施策の中で29番目。
 重要度は3.534で45番目である。
 改善要望度は - 0.2105で39番目である。
 年齢別にみると、満足度は70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 重要度は70歳以上でもっとも高く、30歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位に大きな違いはみられないが、重要度は下がっている。
 満足度の順位では、30歳代で前回調査より大幅に上がり、60歳代で大幅に下がっている。
 重要度の順位では、70歳以上で前回調査より上がり、40歳代で大幅に下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	2	・展示室、小研修室、多目的室でインターネット回線が利用できるようにするなど施設機能の充実を図ることで、産業会館の利用件数(施設の稼働率)の向上に努めている。 ・産業会館の産業情報センターは、主に企業情報の収集や資格取得のための情報入手に利用されており利用件数は増えているが、ホームページ等を活用した情報発信機能や産業全般にわたる相談業務等の充実、中小企業のIT化支援の充実等が求められていることから同センター機能の見直しを進めている。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	2	・産業会館の管理運営については、利用料金制度や指定管理者制度を導入し、利用者サービスの向上、施設の維持管理コストの低減に努めている。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	1	施策の満足度は3.151で51施策の中で29番目、重要度は3.534で45番目となっているが、産業支援基盤の整備は本市の産業を振興するうえで基本となる施策であることから、施策の更なる充実に努めていきたい。	
合計		5	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	
				1次評価
				B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	中小企業のIT化支援を図るうえで、産業情報センター機能の充実が課題となっている。
解決策	IT相談業務等を強化するため、専門的なアドバイザーの派遣を充実するとともに、中小企業のIT化を進めるための人材育成セミナーの実施を検討している。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

構成事務事業が施策の実施にあたっての有効性・効率性に寄与しているか疑問である。 今後は、社会・経済情勢の動向を的確に捉え、産業情報センター機能の充実など、事業の見直しが必要である。	2次評価
	C

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

